

# 2016年度相互評価報告書

対象校

札幌大谷高等学校

評価校

帯广大谷高等学校

(2017年1月25日実施)

2017年3月31日

北海道大谷学園連合会相互評価委員会

## 北海道大谷学園連合会相互評価委員会

主査 堀 武（大谷学園委員会委員、元北海道学事課長）

委員 藤野 明信（函館大谷学園専務理事）

委員 金石 潤導（真宗大谷派北海道教区教化本部長）

委員 丸山 政秀（函館大谷高等学校校長）

委員 富原加奈子（札幌大谷高等学校教頭）

委員 小野 茂（帯广大谷高等学校教頭）

委員 南條 式史（北海道大谷室蘭高等学校教頭）

委員 高野 敏彦（札幌大谷高等学校事務長）

## 札幌大谷高等学校の概要

設置者	学校法人 札幌大谷学園
理事長名	月輪 淳裕
校長名	種市 政己
開設年月日	1906年（明治39年）
所在地	北海道札幌市東区北16条東9丁目1番1号
設置学科	普通科、音楽科、美術科
入学定員	普通科250名、音楽科30名、美術科40名
教職員数	67名

## 調査結果

本校(帯広大谷高等学校)では、1993年から校長の諮問機関である教育体制推進委員会を中心として学校改革を行ってきた。その結果、2003年から現在まで十勝管内私立高校の中では最も高い志願者数と学力レベルを維持してきた。

今回は、今後の更なる進学実績の向上を目指すために、教育活動全般の評価項目の中で、特に進学指導に対する取り組みを重点的に評価することとした。

### 札幌大谷高等学校における進路指導について

#### (1) 普通科のコース編成について

最難関大学を目指す英数選抜コース<6カ年>、難関大学を目指す学力重点コース<Sコース>、クラブ活動に励みながら大学進学を目指す個性探求コース<Gコース>の3コースがある。

##### ①英数選抜コース<6カ年>

密度の濃いカリキュラムで、中1・2は基礎力養成期、中3・高1は応用力養成期、高2・高3は実戦力養成期としている。

英語では、大学受験の基礎となる英単語3000～4000語を中学3年生までにマスターすることを目標としている。これについては、先日視察した本州の進学校でも取り組んでいた。英単語テストと受験の結果が比例していることから、志望校決定の指標の一つとされている。このことを教員全員が共通理解をし、進学指導を行っている点が評価できる。

##### ②学力重点コース<Sコース>

週3日の放課後講座(必修)と土曜講座、朝学習などを通して、ハイレベルな大学受験に対応する学力を養成している。英語と数学は1年生からグレード別授業を導入している。また、教員同士が連携し、一人ひとりに向き合いながら進路指導を実施している。特に、「講座制」では、各自のニーズに合わせた内容の「講座」を自ら選択し、充実した学習ができるようになっている。放課後の講座の充実、授業+講座で進路実績を向上させている点が評価できる。

##### ③個性探求コース<Gコース>

学習とクラブ活動を両立させながら、進路の実現を目指している。一般入試はもちろん、推薦入試のための面接対策や小論文の書き方などの指導も充実している。学習とクラブ活動の両立、入試制度の多様化に対応している点が評価できる。

#### (2) 講座制について

自分で選んだレベルの講座を受講でき、受講料は無料である。1コマ80分で、深く学ぶことができる。

朝講座 7:20～ 8:10 (放課後講座に参加できないクラブ生徒)

放課後講座 15:50～17:10 (Sコース必修)

17:20～18:40

土曜日講座 8:50～10:10

10:20～11:40

13:30～14:50

教員の勤務体制は、労働基準法に則り、変則勤務時間で対応している。先日視察した本州の進学校でも同様の対応をしていた。変則時間帯の導入で、課外講座の充実を図っている点が評価できる。

### (3) 進路指導

2015年度卒業生は、国公立に40名(過去最高)、私立大学に289名が合格した。生徒への進学に対する意識付けとして10年間体育館で実施してきた進学相談会(大学80校)は、とても効果があるとのことであった。他校と連絡を取り合い、実施日をつなげ、大学側の参加をしやすい工夫を行っていた。また、本校で実施していない大学訪問授業や大学出張授業も取り入れることで、進学に対する意識が高まったという。その他、弁護士や警察官など13職種のプロが、働くことの意義などを教えている。大学卒業後のことも視野に入れた職業人ガイダンスを行っている点が評価できる。

### (4) 進路指導室および図書館

高校校舎は本校と同じで老朽化していたが、進路室や図書館の活用に工夫が見られた。

進路室では、最新の情報を収集したり、インターネット出願ができるように生徒用パソコンが6台設置されていた。赤本も新しいものであった。また、生徒用コピー機が設置され、問題集や入試情報が手軽にコピーできるようにしていた。生徒が自主的に調べられる環境作りを行っている点が評価できる。

図書館は、勉強スペースが確保され、照明も多く明るい雰囲気になっていた。司書教諭が中心となり、調べ学習などが行いやすいように図書館の環境を考えている点が評価できる。

### (5) 入試について

推薦・一般ともに、合格基準ランクに満たない場合でも中学校には挑戦圏であると説明し、本校のようにランク外即不合格とはせず合格とするケースがある。中卒者減少の影響が今後も出てくるので、様々な対応が必要とのこと。

合格基準に幅を持たせ、定員確保を目指している点が評価できる。

### (6) 特別奨学生制度

本校の特別奨学生は、第1種から第5種まであり、第1種と第2種の給費額の差は極僅かである。部活動の特別奨学生においては、各部予算やポイント枠の関係で、第1種ではなく第2種以下で勧誘を行うことが多い。第2種であっても他校の第1種よりも給費額が高い状況にあるが、種別のイメージだけで他校の第1種に流れてしまう場合もあるようである。また、中学校時代の大会成績で明確な差がない中で、5つの種別に振り分けている。そこで、札幌大谷高等学校のクラブ特別奨学生等を参考に種別の再検討を行うこととした。札幌大谷高等学校は、種別が少なく基準が明確である点が評価できる。

札幌大谷クラブ特別奨学生

I種 Fランク以上	個人全道上位入賞 団体全道出場、技能トップレベル	入学金：免除 授業料：就学支援金を除く 全額を支給
II種 Fランク以上	全道出場	授業料：月額8,300円支給

(7) 中学校新校舎について

明るい雰囲気の中学校新校舎では、休み時間に教員と生徒が広い廊下に設置されたベンチに座り勉強をしていた。また、その横の壁には説明用のホワイトボードも設置されていた。新校舎を持つ進学校では、校舎の中に多くの学習スペースを設けている。札幌大谷高等学校においても授業時間以外での学習環境作りを行っており、進学実績の向上につながっている点が評価できる。

以上、札幌大谷高等学校の調査結果を参考にしながら、本校生徒に合った進学指導を考えていき、更なる進学実績の向上を目指していきたいと考えております。

最後に、ご助言をいただいた札幌大谷高等学校の種市校長先生をはじめ教職員の皆様に感謝の意を表します。

以 上